

# PRO-LIFE

中絶に反対する運動

1999年10月No.108

## 胎児を守る運動

### ピルは緊急の避妊ではない

女性の身体に放出されてから精子は、すばやく子宮を通り抜け、卵管を通り、卵巣の方へ泳いで行きます。これは、ほんの30分ほどしかかかりません。そこに卵子が待っています。精子が卵子の中に入ってから最初の細胞分裂まで、およそ一日かかります。それから、急速に細胞分裂が起こるのです。命の第一週目、この生まれたての人間の胎児が卵管をスムーズに下りてきて、子宮に辿り着きます。生まれて一週目の胎児は栄養を与える子宮の内側に着床します。

もし受精が起こっていても、女性がセックスのあと72時間以内に経口避妊薬・ピルを飲めば、ピルのホルモンが子宮の内側を硬くします。だからこの小さな赤ん坊は、子宮に到達しても、着床できずに死んでしまいます。ピルはこの小さい人間を、一週間の命で殺すことになるのです。それはごく初期の中絶だということになります。

中絶賛成の団体は、胎児が子宮に着床して初めて「妊娠」が始まると、主張することに必死になっています。多分、母体はそのときまで直接には影響を受けないかもしれ

ませんが、この人間の胎児は、このときすでに一週間になっっているのです。人の命が最初の一個の細胞の段階で始まるのが科学的に証明されたのはもうずいぶん以前のことです。受精の時に妊娠していると言いか、一週間後の着床のときに妊娠していると言いかは、単なる表現の仕方の問題に過ぎないのです。実際は、人の命は最初の段階から存在し、ピルを服用すれば、その作用によって一週間後に死ぬのです。だからピルは緊急の「避妊」というよりむしろ緊急の「中絶」なのです。

たくさんの人々が、このピルは排卵を止めるので、避妊薬だと主張してきました。その仕組みは次のようだと彼らは言うのです。「女性が土曜の夜にセックスをして、日曜の朝にピルを飲みます。彼女の身体の中には精子が残っています。彼女は月曜の夜に排卵の予定でした。ピルを飲まなければ、月曜の夜に彼女は妊娠していたでしょう。というのには、精子は、彼女の身体の中に入ってから72時間は生きていて受精可能なくらい活発でいることができるからです。彼女が日曜の朝にピルを飲めば、月曜の

夜の排卵は阻止されるかもしれないという理論は成り立ちます。それが本当であれば、これは避妊ということになるのですが、ここで一つの問題は、このメカニズムがまだ立証されていないということ、これは理論に過ぎないということ、しかしながら、主たる問

題は、そのようなことはほんの少しのケースにしか起きないだろうということ、そして圧倒的に多くの場合、セックスをした後の数時間以内に女性が妊娠をし、ピルが中絶を引き起こすだろうということ、です。

プロ・ライフ

### 悲しんでいる人たちへ

17才の時、妊娠2期目(3ヶ月、6ヶ月)で塩水中絶を経験しました。赤ん坊を産みたかったのですが、両親は中絶を受けようように迫りました。何時間もの陣痛の後に、男の子を産みました。このことは、私の人生に大きな衝撃を与えました、と言うと控えめな言い方になります。

罪悪感や羞恥心や中絶の悲しみのために、苦しんでいた過去の自分を振り返って見ると、驚きの連続です。でも今では喜びと感謝の気持ちいっぱい暮らしています。神の慈悲や優しさを疑う代わりに、私はそれを期待するようになったのです。

神は全てのものから、たとえ最悪の事態からであっても、良いものをもたらすことができると言われていきます。私には、このことが信じたいと思う時があったのです

が、今は私自身の経験から、このことが真実だと実感しています。もし私たちが神がそうすることを拒まなければ、神は本当に全てのものから、たとえ中絶からでも、良いものをもたらすことができるのです。中絶をしてしまった人たちも、神の恩寵によって、安らぎと癒しと人生の喜びさえも見つけられるようになるのです。

あなた方の中には、「でも、私が中絶したのは一度だけじゃない。」とか、「私のは彼女よりもたぶんひどかった。」とか、「誰に中絶しなさいと強制された訳ではないのに私でした。」とか考えている人がおられると思います。でもそれに対して私は、中絶からの癒しの過程は、あなたが誰でありあなたが何をしたかではなくて、神が誰であり神が何をしたかなのですとお答えし

ます。

神の慈悲は、あなたが癒しの過程を神の導きに思い切って任せてしまえば、すぐそこにあるのです。神の恵みによって、あなたは安らぎに満ちた、新しい人生が与えられるのです。神が私の心の中におられるので、私はこの安らぎを感じられるのです。

私はもう完璧でなければという必要性を感じることはありません。神は私が完璧でなくても、さらに、完璧でないが故に、私を愛して下さるのを知っているからです。私はもう、見捨てられることを恐れはしません。というのは、神は決して中絶した後でも私を見捨てたりしないことがわかったからです。

癒してもらって私は、どうすれば他の人に対してより多くの思いやりやいたわりの気持ちを持つてかを学びました。私は人を裁かないように気をつけています。というのは私が昔自分がどうであったか、そして私が思いやりや慈悲をどのくらい必要としていたかを知っているからです。中絶で失った我が子を通じて、神は、私がいつも望んでいた自己中心の愛情とは対照的な、真実の愛を私に教えてくれました。神が私に示された許しを通して、私は他人や自分自身さえも許す方法を学びました。私が

神の中に見つけた愛のために、私はこの人生で決してひとりではないということ、神が一緒にいてくださるということを知っているのです。苦難を恐れなくなっているのです。

私はあなたに対してうそをつくつもりはありません。それは難しい道程でした。あなたは正直に自分自身と向き合わなければなりませんし、また私たちの持つているたくさんの欠点と向かい合うことは恐ろしいことです。中絶を経験した後の私たちにとつて、直面しなければならぬことは、そもそも私たちに中絶を選択させたのとまさに同じ恐怖感なのです。逆説的な見方をすれば、これらの、見捨てられるという恐れ、自己愛、自尊心などを直視することはまさに、私たちがそれらから解放されるもととなるものなのです。その道程がどんなに厳しいものであっても、それを引きずって生きていくほど大変なことでは決してないのです。

だから、私はあなたに癒しに向かつて進んで行くことをお勧めします。そしてあなたを助けしてくれる人たちへ手を差し出すことよって、あなたがこの旅を始められるように祈っています。中絶後の問題に関して、あなた自身で学び、あなたより前にこの道を歩いていった他の人が

らの支えを見つけ、そして最も重要なことですが、たとえ信じられると「感じ」られなくても、神を信じることによって本當の癒しに向かうことができるようになるでしょう。

あなたのように感じているのは、あなただけではいけないということをお覚えておいてください。それには理由があるのです。中絶後の癒しには「政治」や議論の余地はありません。私たちは我が子を失ったのです。私たちが子どもたちの死を悲しむことは許されなければなりません。癒しを通して、あなた方は例え中絶していても、より良い人間になるでしょう。神の慈悲と愛を示すために、神はあなた方を待っていてなのです。

テリサ・ボナバルティ



### 医者言うことに従わず、危険を冒して子どもを産んだ母親

#### 危険を冒して子どもを産んだ母親

フィラデルフィアのある夫婦は、パレンタインデーを祝っただけでなく、もっと多くのもの、つまり二人の結婚記念日と、夫の誕生日と、そして全ての医者の忠告に従わずに妊娠期間を全うして生まれた健康な男の子の誕生を祝いました。

42歳のジョーン・ダニエルさんは、両方の肺を侵し他の臓器にも転移する可能性のあるサルコイドーシス(類肉腫症)という珍しい病気にかかっていましたが、中絶をせずに子どもを産む決心をしました。

「24週に入るまでに中絶を受けたほうがよいと忠告されました」と、テンブル大学病院で木曜日に生まれた息子のレジナルド・パレンタイン・ダニエル二世をあやしながらダニエルさんは言いました。

医者は彼女に、中絶をしてサルコイドーシス(類肉腫症)の進行を抑えてからもう一度妊娠したほうが、母体の産後の生存の可能性が高まるだろうと言いました。しかし、よく考え祈りを捧げた後で、中絶しなさいという忠告を拒否することに決めたと彼女は言いました。

「神様は、私が頑張れると信じて下さらなければ、このようなことをお許しにならないでしょう。」とダニエルさんは言いました。彼女は昨日退院することになっていましたが、肺移植のウエイティングリストに載るかどうかについての知らせを待っていたのです。

ダニエルさんのような状態にある人にとっての出産は非常に複雑なので、危険を最小限に抑えるために、数人の医者がチームを組んで協力してあたら

なければならなかったと、テンブル大学病院のスポークススマンのピピカ・エイコックスは言いました。母親は局所麻酔だけの帝王切開で出産しなければなりませんでした。

「この子は42歳で私が初めて産んだ子どもです。そして私が結婚したのは、ちょうど一年前の今日でした。私は危険を冒す価値があると思っただけです。うまくいくということを証明するために私はここに来たのです。」とダニエルさんは言いました。

夫の、レジナルド・V・ダニエル氏は昨日42歳の誕生日を迎えたのですが、たいへんな経験だったけれども、何もかもうまくいってほっとしていると語りました。

「私は、彼女がうまく危機を切り抜けるように、神様のお恵みがありますようにとただ祈るだけでした。」とダニエル氏は語りました。しかし、医者が恐れていることが本当に起こるかもしれないとずっと心配していました。「医者が恐れていることが起こるかもしれないと思うと、本当にぞっとしました。」と彼は言いました。

「私は、自分の人生で大切な人を二人手に入れたのです。合併症は全くありません。」と、体を屈めて息子に見ながら彼は言いました。少し早かったにしても、彼の夢は実現したのでした。「自分の誕生日に美しい女性と結婚するのがずっと私の夢でしたが、その夢はすでに実現しました。そしてできればその同じ日に息子をもつけるのも私の夢でした。ただ三日早かったのですが。」と彼は語りました。

# 希望を見つける

中絶を選択する女性達の多くは、状況や周りの人々からの要求のため、自分ではどうにもならないと感じている。彼女達の母性は子どもを育てたいと望んでいるかもしれないのに、もし中絶しなければ、自分がこれまでに手にしたものの一部を、更には、両親や夫や恋人からの愛、仕事、自由等すべてを失ってしまうのではないかと恐れている。

の人生を絶望に陥らせるには三つの理由がある：苦悩を生じさせる事、更なる罪を犯させる事、そして神の深遠な慈悲への疑念を生ませる事にある。逆にイエスは、中絶を経験した女性達を受け入れ続け、神の慈悲と許しを信じる事で希望と徳を信奉するように導くのである。

中絶とは絶望の行為である。絶望とは希望の反対で、女性は中絶するかしないか精神的な戦いに取り巻かれてしまう。イエスはあなたはあなたの子どもの人生の前途のプランを持っていてから希望を捨てないように、と女性に呼びかける。でも一方では悪魔が、これまでの人生を守るには、自分の立場を考え子どもをあきらめて、他のすべてを保つしかない、と主張している。

多くの中絶経験者にとって、神の許しは、頭では判っていても、実感するのは難しいものである。どうして許される事などあるだろうか？彼女達の犯した罪への怖れは、これ程までに大きいのである。それでも彼女達の多くは、神の許しを信じなければいけないと判っており、信仰の行為として努力する。しかし彼女達の内から自然に沸き上がる本能のすべてが、自分は許されるべきではないと感じているのに、それでも許してもらう事など出来るのだろうか？

例えば私が楽しいドライブ中、スリルを求めてスピードを出していたとしよう。そこへ一瞬の光。ドスン。そして私は誰かを殺してしまったと知る。私は被害者に駆け寄る。彼は死んでいる。無実な人が、私の不注意のせいで殺されてしまったのだ。私の罪は明確な事実で、自業自得である。しかし少しすると被害者は、生きたまま怪我もなく、軽々と立ち上がったのである。これで罪は消えた！私は自分の徳行からではなく、彼の不死性に救われたのである。

例え私を楽しんでいる中、スリルを求めてスピードを出していたとしよう。そこへ一瞬の光。ドスン。そして私は誰かを殺してしまったと知る。私は被害者に駆け寄る。彼は死んでいる。無実な人が、私の不注意のせいで殺されてしまったのだ。私の罪は明確な事実で、自業自得である。しかし少しすると被害者は、生きたまま怪我もなく、軽々と立ち上がったのである。これで罪は消えた！私は自分の徳行からではなく、彼の不死性に救われたのである。

だから中絶したあなたの償いは、罪と絶望にこだわり続ける事ではなく神の愛を信じる事である。神からの新しい命の贈り物を拒否した事で、あなたは一度失敗している。けれども神は二度目の贈り物、あなたへの新しい期待を、心から与えたいと思っただけでいらっしやる。その贈り物とは神の許し、そしてあなたの心の生まれ変わる事と、再出発である。

これと同じように、私達は皆、人殺しを許されてきたのである。私達の犯した罪、それがどんな罪であっても、イエスを十字架にかけたという事で、私達は一人一人、有罪なのだ。

神の慈悲を拒否するというのは、神の愛を拒否するのと同じである。神の許しを拒否する事で、神を侮辱してはならない。それはあなたが許されるに値するからではなく、神が御自分の豊富な御慈悲の素晴らしさを周りに知らしめる手だてとして、あなたを招いておられる。

私達の罪のせいでイエス様は十字架で殺された。イエス様の血は私達の手に付いている。しかしイエスタワーの日曜日にイエス様は死から甦った。彼は死にはしなかったのである！私達の罪は解かれたのだ。

「でも私の子どもは生き返らなかった。」と中絶経験のある女性は訴える。「あの子は確かに死んでしまいい、私はその死によって有罪なのだ。」しかし、それは罪の意識が絶望へ歪められた一つの例だ、と私はその様な女性に答えるだろう。

ある意味では（もつと的確に言い表せない私の力不足を讀者に許してもらいたい）不滅の人が壊滅する事がないのなら、殺しの中の最たる悲劇は何かとえば、この罪が殺した方に及ぼすものである。殺された方が不当に命を奪われたという事を否定するというのはないが、そのような無実な犠牲者達へは神の御慈悲があるのはわかって

## 葉 悲しむ母親への言

「でも私の子どもは生き返らなかった。」と中絶経験のある女性は訴える。「あの子は確かに死んでしまいい、私はその死によって有罪なのだ。」しかし、それは罪の意識が絶望へ歪められた一つの例だ、と私はその様な女性に答えるだろう。

あなたの神に対する信頼の欠如の結果として、中絶があった事を、忘れてはならない。あなたを妊娠させ、神はあなたに愛する機会を与えようとした。しかしあなたは、神のあなたへの期待を信じなかつた為に、この贈り物を拒否してしまった。この信頼と従順の欠如は、あなたのも私のも、すべての罪の根本となるものである。

ある意味では（もつと的確に言い表せない私の力不足を讀者に許してもらいたい）不滅の人が壊滅する事がないのなら、殺しの中の最たる悲劇は何かとえば、この罪が殺した方に及ぼすものである。殺された方が不当に命を奪われたという事を否定するというのはないが、そのような無実な犠牲者達へは神の御慈悲があるのはわかって

いる。それよりも私達は、殺した方の永遠の不幸を考えなければならぬ。

聖書では、悪を成すより悪を耐える方がよい、とするばかりではなく、悪い事をして苦しむ人も、イエス様の苦しみを分かち合う者としての喜びがあると述べている。(ペテロへの第一の手紙 四：13-16) 前述したように、中絶で肉体的苦痛を味わった胎児達は、神にその無垢さが認められ表彰される事になった、不滅者である。しかし直接的又は間接的に、あるいは個人的又は社会的に、中絶に関わった者達の精神的ダメージは、計り知れない。

中絶の持つ精神的な意味について、別の面から見てみよう。まず昔からのキリスト教の教えを考へる事から始めてみる。神はすべての生命の創り主であり、しるから、どんな子どもだって、つつかり出来てしまった、などという事はない。神の計画の中での役割が、それぞれにあるのだ。この神の意図には、子ども達の運命だけでなく、その子ども達の人生に関わり合う者達の運命も、含まれている。両親にとっては、子どもを授かる事で、更なる寛大さや責任感を持ち、愛の真意を知るように、と導かれてくるのかも知れない。どんな命

も、使命なしに創られてはいないのだ。私達の役目とはただ、その使命を探し出し、使命を果たすのに協力する事である。

つまり、人が新しい生命という贈り物を神によって拒否する度に、それは神からの贈り物を拒否しているという事になる！それは明らかに贈り主への侮辱である。しかしその侮辱の罪は、慈悲深くも許されるのである。そこで私達クリスチャンは、神からの許しの使いとして、遣わされている。私達は、天国に生まれる得なかつた子ども達には、何もしてやる事が出来ないが、中絶によって道徳的にひどく傷付いた女性達や男性達には、してあげられる事が沢山ある。簡単に言えば、中絶の恐ろしさで減らさるというのではないが、中絶で殺された子ども達は、素晴らしい神の元ですつと生きていく、と私は確信している。更に、もし魂の救済が善行の極みであるなら、魂を地獄へ落とすのは悪行の極みである。だから中絶による最大の悪とは、中絶の罪にかかった女性達、男性達、その家族(そして政治家達)に及ぼす、精神的ダメージにある。最も危機にあるのはこの様に傷付き、心から血を流し、絶望し、更には神に反逆心を持つてしまった人々だ。彼等にこそ、私達クリスチャンは手を差し伸べ、

彼等は許されるといふよいニュースと希望とを、与えなければならぬ。

女性達を中絶へ誘導してしまふ絶望感も、神の愛を疑つてしまふ理由の一つである。この怖れは次々と多くの人々を無神論に至らせる。この様な場合、地獄への恐怖によって、壊滅の死を望むのである：「終わりが来ればすべて終わる」。絶望に囚われた者達にとっては、自己の壊滅が唯一の望みなのだ。

これは、多くの中絶経験のある女性達が絶望の中でさえ平安を求め、自殺に走る理由の説明になるだろう。別の一部の女性達は自分の心を殺してしまふ手だてとして、麻薬やアルコールの乱用にする。又一部の女性達は、無意味な行動と、つまらないパーティーにうつつを抜かず事によって、本当の人生から、ただ逃げていく。思い出さないういらいらる為には何でもするのである。

もちろん中絶だけが、神と人とを離してしまふ罪ではない。しかし中絶を経験した者は、神との間にいつも大きな隔たりを持つてしまふ。元に戻るには、私達が親身になって、世話をしなければならぬ。彼女等に希望を与える事で、彼女等が神に返る手助けが出来るのである。

## 中絶後遺症候群… 中絶後の痛み

中絶の直後、ホツとしたと答える女性が多い。これは医師が進んで公表したがる情報だ。しかし、その後、罪悪感や悲愴感に襲われるというのは案外知られていない。最近の統計によると中絶経験者の56%が手術を後悔しており、中には手術した事すら認めまいとする人もいると分析されている。5年がかりの調査の結果、中絶経験者の25%が心理療法を必要としており、これに對し未経験者では3%にとどまると分かった。更にさまざまな分析により経験者はかなり高い割合で落ち込み、ストレスを感じ、自分を責めたり自殺願望を持つ事も判明した。だから、お腹の中の赤ちゃんを中絶から救うのは言うまでもなく、同時に母親も助けてあげなくてはならない事が分かる。

Family Research Council

## リビングウイル・・・ 聞こえはいいのですが

『リビングウイルは患者や医師や社会にとつて不必要で危険なものです。』

リビングウイルは、安らかで尊厳ある死に方をするために必要であると奨励されている文書です。しかし、それは時には有益なものというよりはむしろ有害なものになるのです。リビングウイルにサインする前に、あるいはリビングウイルに法的な拘束力をもたせる法律を支持する前に、事実を知つて下さい。

### (A) リビングウイルとは何でしょうか。

リビングウイルとは、将来重体になつて、万一自分で医療の決定ができなくなつた時に、延命治療

を見合わせてもらつとか中止してもらつとかの指示を前もつてしておく文書のことです。

### (B) なぜ法的拘束力の必要なのでしょうか。

自分で決定できなくなつた時に、どのような治療をしてもらいたいかを家族や医師に告げるインフォームド・コンセントをする権利がすでにあるからです。

末期患者にとつての全く無益な治療を保留したり中止したりすること、医者はすでに自由にできるからです。医療技術が自分達の最期の日々を苦めることにはなるのではないかと心配する(5ページへ)

る人もいます。しかし、彼らが恐れている「愚かな医療」こそが、苦痛の少ない安楽な死を可能にする治療であると言えそうです。

**(C) 法的な拘束力を持つリビングウィルが患者や医者や社会にとって、なぜ危険なのでしょうか。**

リビングウィルは曖昧なものであるために悪用されやすいからです。

病気や怪我をしないうちに十分な情報に基づいた治療方法を決めることは不可能だからです。将来特別な状況が生じた場合、治療に関する決定に影響が生じるからです。いつともわからぬ将来の或る日の、はっきりしない状況下において、医療関係者に、全ての延命治療を保留あるいは中止をすることを、前もって指示しておくことは、インフォームド・コンセントを無視することであり、適正な医療業務を妨げることとなります。

法的な拘束力を持つリビングウィルにサインした患者が決断をすることができなくなった時、医者や家族は、その文書によって選択の幅が著しく制限されてしまうので、患者にとって一番利益となる医療の決定ができなくなるかもしれません。

法律になれば、リビングウィルは高齢者だけを対象としたものでなくなるでしょう。そのよ

うな文書にサインする健康な人には、将来どんな状況で効力を発するのか予測できないのです。たとえば、年をとって癌と闘った後なら、延命治療を受けたくないと思うかもしれません。若いうちに交通事故で負傷した場合、積極的な治療を希望するかもしれません。法的拘束力をもつ遺言状は、そのような区別は全くしないでしょう。リビングウィルは、治療の決定を自分で、「もはやできなくなった」時に、発効されるものなのです。しかし、決定ができないということを客観的に判断する基準はリビングウィルにはないのです。

リビングウィルを認める法の下において、患者が末期状態にあるかどうかに関して疑問がある時、医師にとって最も安全な方法は、患者の命を守る努力をして、リビングウィルの通りにしなかったことで訴えられるよりも延命治療をあえてしないということになるでしょう。

**(D) あらゆる状況において、あらゆる患者に、あらゆる治療が行なわれるべきなのでしょうか。**

もちろんそうではありません。現行の法律も教会も生きる権利を唱えている団体も、あらゆる状況において、あらゆる患者に、あらゆる治療方法が適用される

べきだとは要求していません。患者が瀕死の状態にある時、患者にとって全く無益な、ただ延命のためだけの治療をやめることは、正しい医療であり、道徳的に正しいことなのです。しかし、食料や水を、すべての人が受ける資格がある通常の治療というよりはむしろ、特定の患者に対しては任意に選択すべき「医療」と定義する驚くべき傾向があります。

**(E) 結論**

今日、特に施設で看護されている患者は、過剰治療よりもむしろ治療不足の危機にさらされています。

リビングウィルは生きることよりも死ぬことを支持する法律

# 安楽死は個人の自由の問題なのか

安楽死制度の支持者は、安楽死の問題を個人の自由であると考えています。ある人が死にたいと思えば、それを周囲の私たちがしてはならないことだと考えていても、その人を止める権利が私たちにありますか。

安楽死制度の支持者は、こんな状況をよく例に出します。ある人が不治の病に冒されているとします。彼は病院のベッドの上において、たぐさんの管を付けられ、動くこともできずただ息

をしているだけ、という状態にあり、苦痛にあえいでいます。患者は、管を全部はずして家に帰り、残された時間がどれほどであらうと生き抜き、安らかな死を迎えたいと懇願します。けれども医師たちはそれを拒否します。なぜなら管をはずすことは、すなわち死を意味し、医師としての哲学に反すると思ひ込んでいるからです。

患者には、自分で決断をする権利がないのでしょうか？

安楽死制度支持者の宣伝文句はこうですが、今日では議論の論点はそこではありません。

最近では、患者が希望しない治療を医師が強制するようなことはほとんどなくなりまし。生命尊重者も、その治療法のみならず副作用(例えば大きな苦

痛を伴ったり、機械に縛り付けられたりすることなど)の方が、病気そのものよりも苦痛であると患者自身が考える場合は、誰でもそれを拒否する権利があることを認めています。たとえば、それが患者の命を縮めることであっても、おそらくはより充実した余生を送ることができらうです。

今日の安楽死をめぐる議論においての大きな問題は、次の二つのケースです。

その1: ある人が、重い病に冒されているからか、それともそれ以外の理由からか、精神的

にとても落ち込んでいて、もう死にたいと言っている場合。このような人は、自殺を考える人となら変わりありません。彼らは、感情的・心理的な問題の上に医学的な問題を抱えているのです。たとえばある人は、自分が病気になる前のような活発な生活を送れないことに欲求不満を感じます。またある人は、自分が家族の重荷になっていることを申し訳なく思っています。しかし、このような人が死にたいと言ったり、自殺を企てたりする時、本当は死にたくないと思っているケースがほとんどだということにソーシャルワーカーや心理学者たちは気づいたのです。本当に彼らが望んでいるのは、周りの人々に気にかけてもらうことなのです。周りの人に「死なないで、私たちはあなたを愛しているのだから」とか、「あなたがそんなに苦しんでいたなんて気がつかなかった」などと言ってほしいのです。本音では、自殺が失敗すればいいと思っているのです。ですから、このような人に対して自殺をする「権利」があると言うことは、すなわち「あなたの考えている通り、あなたはもう役立たずで、家族にも迷惑ばかりかけているし、医者時間を無駄にしている。この世からあなたがいなくなった方がずっといいのだ」と言っているようなものです。

その2：他人とコミュニケーションできないような病気に冒されている場合。これには、昏睡状態や麻痺状態の人、あるいはあまりに弱っていて意思疎通できるような発声ができない人なども含まれます。安楽死支持者は、このような患者の「生命の質」はあまりに低いので、死んだ方がましだとしています。米国では、このような場合もつともよく用いられる方法は、飲食物を一切与えず、餓死していくのを待つやり方です。これは、もつとも苦しい死に方にちがいありません。通常、こうした患者には餓死が進むうちにおこる痙攣を防ぐ薬が処方されますが、これは「安らかに死んでいく」患者を見守る家族や友人が、つらい思いをしないための配慮で、こういうや

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

- [201] 生か死..... + 郵送料
[202] 第二の処女生..... + 郵送料
[203] デート..... + 郵送料
[204] どうするの?..... + 郵送料
[205] "NO"という技術..... + 郵送料
[206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
[207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料
[208] していましたか..... + 郵送料
[209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
[210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
[211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

- [301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
[303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
[304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
[305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

- [401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
[403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
[404] いのちのちーおくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
[407] 命美しいもの=one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
[409] 聞こえる?天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
[410] ビル先道国・英国からの警告...(VHS)...15000 + 郵送料
[500] (本)生命問題に関する...(カトリックの教訓)...2987 + 郵送料
[501] (本)自然な家族計画...(ビリングス・メソッド)...1000 + 郵送料
[503] (本)プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
[504] (本)小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
[505] (本)いのちをみつめて.....500 + 郵送料
[506] (本)命あるすべてのものに(マザー・テレサ).....650 + 郵送料
[507] (本)私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
[508] (本)いのちの福音.....1500 + 郵送料
[509] (本)小さき生命のために.....1300 + 郵送料
[511] (本)赤ちゃん:最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
[512]本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
[513]本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
[514]本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
[515] (本)経口避妊薬:ピル.....100 + 郵送料
[516] (本)いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料

り方を「消極的安楽死」といいます。「消極的」とは、それが直接患者を殺すことにはならないからで、「医療処置」と定義していた飲食物の投与を単にやめるだけのことだからです。安楽死制度支持者は、「もちろん安楽死は不治の病に冒されている人に限られるべきだ」とよく言います。彼らの定義によると、「不治の病」とは、医療処置なしではあと数ヶ月で死んでしまう病気のことです。しかし、もし飲食物の投与が「医療処置」とみなされたら、この定義によると「誰が「不治の病」に冒されていないと言えるでしょうか?当然のことながら、水分を摂ったり食べ物を食べたりする「医療処置」を禁じられたら、誰だって数週間で死んでしまうでしょう。(オランダではもつと情け深く、餓死させるなどという方法ではなく、患者に致死量の注射をする方法を行っています。)

このように、他人がある人の生命を、生きる価値がないとして勝手に死を決め、実行するところが安楽死の恐ろしいところなのです。

しかし、もつとも恐ろしいのは、社会のお荷物になっていて患者は「安楽死」されるべきであるという議論があることです。例えば、ある患者に必要となる医療費が高額で、たとえその処置を行ったとしても患者の命が数ヶ月延びるだけだから、その医療費をもつと有益なことに使ってはどうか、という意見があるのです。

ここでまず、特別の医療処置と、病院のベットと飲食物を与え、簡単な薬を投与することとの違いをはっきりさせましょう。

[511] 赤ちゃん:最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬:ピル

注文: 1部 = ¥100, 5部 = ¥75, フルカラー 21部 = ¥50, 1000部以上 1部 = ¥35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

パンフレット申し込は... 1部 = 35円, 5部 = 25円, 101部 = 20円, 500部 = 15円

安楽死支持者はこの点をあいまいにして混乱させています。私は、全ての患者の延命を図るために、社会が無限の努力を払うべきだとは考えていません。ただ、その患者が「邪魔とかかわいそう」だからという理由で、意図的にその人を殺すことがあってはならないと言っているのです。

私の友人である医師から聞いたあるケースを紹介しましょう。彼はある時、老人ホームにいる患者を訪ねました。そのホームの院長が話してくれたところによると、ある夫婦が母親をホームに見舞いに来て、母親を安楽死させてくれと頼んだということです。彼らはあからさまに、「母親の遺産なしではやっていけない」と言い、母親が自然に死ぬまで待ってられないというのでした。院長はその夫婦を叩き出しました。次に友人がホームを訪ねた時、夫婦が母親を別の老人ホームへ移したと院長から聞きました。それから二週間後、母親は亡くなりました。

もう一つ、あるオランダ医師によるケースを紹介します。彼はある女性患者をガンと診断し、木曜日に病院に入院させて治療を始めました。効果は上々で、土曜日には回復の兆しが明確に現れていました。日曜日には、彼は患者が完全に回復すると考えるに至りました。そして月曜日、病院に行ってみると、違う患者がベッドにいました。病院のスタッフに、彼女をどこに移したのか尋ねると、「ああ」とある実習生が答えました。「ベットが必要だったので、昨夜注射をしたのですよ。」注射とは、もちろん致死量のものでした。

これも私がよく聞く話ですが、オランダの老人たちは今や、殺されることを恐れて病院へ行きたがらないのだそうです。国際反安楽死特別調査団のリタ・マーカーによると、現在のオランダでは、死者のうちの15%が安楽死によるものだということなのです。

何年前か、コロラド州知事のリチャード・ラム氏が、「不治の病の老人患者は、死んで人々の邪魔にならないようにする義務がある」と発言しました。(老人の死ぬ義務)一九八四年三月二十九日付ニューヨークタイムズ紙)

この発言は、私たちがすでに「死ぬ権利」を議論する段階から「死ぬ義務」を考えるべき段階へと移行してしまっていることを示しています。

では、「生産的でない」とか、「高齢者の人口が増えすぎている」からという理由で、人々をケアすることをやめてしまった時、私たちの社会はどうなるのでしょうか？人間の生命の価値は、その人がどれだけたくさんの機械の部品を作ることができるか、あるいはどれだけ多額の税金を払うことができるかといったことで計られるものではないと私は信じています。私たちは生きるために経済活動に従事すべきですが、それが生きる理由ではありません。経済の目的は経済を維持することではありません。身体障害者も知的障害者も老人も、若者や健康者と同じく大切なのです。彼らが経済に貢献する度合いが低いからといって、人間としての価値が劣ることにはならないのです。

もちろん、助けを必要とする人々に与えられる援助にも限りがあります。例えば、二人分の薬しかないのに、三人の患者がいる場合など、時には厳しい選択を迫られることもあるでしょう。健康者にも援助が必要な場合もあるし、病人のためにすべてをつぎ込むことはできないでしょう。けれども、最善を尽くして努力するべきです。その努力を惜しむことは、私たちを人間以下のものにおとしめます。人の命を、自分たちに利益をもたらす間だけ認めると平気で口にするとは、そのような社会を、私たちは本当に望んでいるのでしょうか？

ジェイ・ヨハンセン

## 事務所便り

皆様お元気でお過ごしでしょうか。

東京にある生命尊重のグループがつくった教育ビデオ：『ビル先進国、英国からの警告』を事務所でも販売しております。高松と東京と二回見る機会に恵まれましたが、見る度に、これは、ビルを認可してしまった日本も、そして世界も大変なことになってしまつたのではないかと将来を危ぶむ気持ちにさせられます。「ビルのために異変が起こった魚の例は、やがては、人間にも起こりうることだ」と思つのですが、そんなことは起こらないと誰も否定できないからです。それに、そのビデオでは、両親が本当に良い子と述べた子どもが、親に内緒でビルを服用し、その副作用で亡くなつていました。十代の娘のいる家庭で、このようなことが起これば、家庭での教育も難しくなつていくのではないのでしょうか。

四月に、事務所から皆様へ、小冊子『ビル』をPRでお送りし、ビルの危険性を伝えて頂きたくお願い致しましたが、如何でしょうか。この小冊子とビデオを使って、皆様の周りに居られる方々に、皆様からその真実を、その危険性をお伝え下さる様に重ね重ねお願い申し上げます。

また、英知大学の松本信愛神父様が『いのちの福音と教育』と題する本を出版なさり、事務所でも販売許可を頂きました。

脳死による臓器移植が、私たちの事務所のある場所から、数分のところにある赤十字病院で第一回目が行われ、その後、数が増えて行っています。それぞれの様子を見ながら、脳死判定が出ない前に、すでにインターネットで脳死として流れてしまつていたことなど考えると、事務所からのメッセージは、「心臓が生きているのに、脳死は本当に人の死なのか。」ということなのです。

日本プロ・ライフ・ムーブメント